

コミュニケーション

communication

No.109

2025.3月号

Contents

- P2～3 園長あいさつ／こんにちは!あかちゃん／
移動動物／訃報／飼育動物数
- P4～5 【特集1】動物園の運営費支援拡大に向けた新たな取組
- P6～7 【特集2】「51年目の進化
～楽しく学べる体験型動物園を目指して～」
- 【特集3】塩曳淵に生息するゼニタナゴの保全活動
- P8～9 飼育レポート
- P10～11 大森山アートプロジェクト／イベントレポート
- P12 飼育日誌、お客さまの声、かたばた通信



あきぎん 大モリンの森



ホッキョクオオカミの
ルーシー(左)とニッキー(右)

園長あいさつ

「変えてゆくもの、
変えてはならぬもの」

園長 小松 守

開園50周年を終え、51年目を迎えた昨シーズン、次世代を担う若いスタッフが未来に向けて掲げたテーマは「楽しく学べる体験型動物園」でした。これまでのパフォーマンスに磨きをかけ、より楽しく、よりたくさんの気づきを得て、学べる新たな動物園づくりへのチャレンジです。シーズン後半には園内遊園地アニパとの共同企画「謎解きクエスト」も加わり、多くの来園者に楽しんで

いただきました。動物園を変えていこうとするこうした動きは大森山動物園をさらに特徴付けるものになるはずです。

今、秋田の動物園を取り巻く経営環境は少子高齢化、人口減少など厳しいものがありますが、動物が環境変化に適応進化し生き抜いてきたように、動物園も時代の変化に合わせ変わってゆく必要があります。

一方、いのちを預かる動物園、変えてはならぬ大事な本体があります。それは動物のいのちを守りつなぎ続けること、来園者に動物との出会いを提供し、動物と心を通わすことのできる環境づくりで「いのちのドラマ」を伝え続けることです。これらは動物園であり続けるための大事な要件とも言えましょう。動物園生活50年で到達した心境です。

今シーズンも大森山動物園をどうぞよろしくお願いいたします。



楽しく学べる「モルモットのロングカクカク橋渡り」

こんにちは！あかちゃん

インドクジャク 4羽

8月9日に4羽が自然ふ化しました。ふ化したばかりのヒナはあまりに小さく、金網の隙間から展示場の外に出てしまうおそれがあったため、お母さんと一緒にお客さまにもご覧いただける小屋に移動しました。



8月17日撮影



2024年8月以降に大森山動物園で
生まれた赤ちゃんをご紹介します。✨

アカカンガルー ヒラメとデコポン

11月27日にカスベとみかんの袋からそれぞれ顔を出しました。年末に、カスベの袋にいるはずのヒラメの姿が確認できなくなりました。部屋中をくまなく探したところ、なんと、みかんの袋の中に2頭の子どもが入っていることがわかりました。2頭とも元気に育つように人工哺育も準備中です。



ヒラメ(カスベの仔)



デコポン(みかんの仔) 12月撮影

飼育動物数(12月末時点)

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	無脊椎動物	合計
45種 323点	23種 118点	12種 26点	3種 10点	3種 29点	1種 23点	87種 529点

仲間入りした動物たち よろしくね！

ホンドリス 4頭

12月19日に盛岡市動物公園からオス2頭、メス2頭のホンドリスが来園しました。大森山動物園のリスの数が減っているので、繁殖に期待がかかります。

このほか、コモンマーモセットのメス2頭が上野動物園から来園しています。



大森山を後にした動物たち 元気でね！

ユキヒョウ ヒカリ♀

2022年に大森山動物園で誕生したユキヒョウのヒカリが10月22日に札幌市円山動物園へお嫁入りしました。引っ越しにはいろいろと苦労がありました。

詳しくは8ページの飼育レポートをご覧ください。



ヒカリ/メス

訃報 忘れないよ…

エリマキキツネザル カイン♂

カインは1997年に上野動物園から来園し、ジェシカとの間に多くの子どもを残しました。晩年は体力も衰え、定期的な治療が必要だったことから、ケージで個別に飼育し、2024年10月23日に29歳で亡くなりました。大往生でした。



ニホンアナグマ いけだ♂

11月27日に亡くなりました。いけだは2009年に高知県のわんぱくこうちアニマルランドから来園しました。愛称はわんぱくこうちの担当者にちなんだものです。いけだは、1頭だけでゆっくり食べられる環境だったのですが、エサをとられないよう急いで食べていたのが印象的でした。



シュバシコウ♂（ヨーロッパコウノトリ）

12月14日に26歳で亡くなりました。1999年に大阪の天王寺動物園から来園し、フライングケージや遊園地近くの展示場で過ごし、繁殖にも成功しました。赤ちゃんを運んでくるのはニホンコウノトリではなくシュバシコウと言われており、子宝祈願していくお客さまもいたそうです。



ミニチュアホース エルフィー♀

エルフィーは2007年に大森山動物園で生まれました。3頭いる中で一番小さな馬でしたが、自己主張が強く、お転婆なところもあり、担当者にはとても甘えん坊でした。12月25日に17歳で亡くなりました。



この他、ニホンリス、マナヅル、ロップイヤーラビット、プレーリードッグ、ワオキツネザル、ニホンザル、イワシャコ、モルモット、キョンが亡くなりました。



動物園の運営費支援拡大に向けた新たな取組

事務長 吉田 淳一

近年、さまざまな物価の上昇により、動物の飼料費や動物舎の暖房費などもその影響を受け、動物園の運営を圧迫しています。

大森山動物園では、個人の方をはじめ、企業や団体などさまざまな方からご寄附等をいただき、飼料費や暖房費、施設の修繕費など、動物たちが幸せに暮らすための費用に充てさせていただくため、新たな取組を始めました。

取組 1

動物サポーター制度を導入

動物サポーター制度は、動物の種類や動物園の施設ごとに寄附金額を設定し、企業や団体からサポーターを募る制度で、先行して実施している動物園を参考に制度を作りました。サポーターになると、企業名などを記載したプレートが動物舎などに掲示できるほか、支援動物舎の見学や、支援動物の写真を使用して自社のホームページなどでサポーターであることを発信できるなどの特典があります。2025年3月時点で13者をサポーターに認定予定です。



動物サポータープレートの掲示(アフリカゾウ)



穂積市長も出席した動物サポーター認定式(2024年9月1日)



取組 2

Amazonほしい物リストの活用

すでに多くの動物園や水族館などで活用している「Amazonほしい物リスト」を導入しました。動物の飼育環境の向上などに必要な物品のリストをAmazonのショッピングサイトに掲載し、購入された方から物品による寄附という形でいただきました。

Amazonほしい物リストは、飼育現場や動物病院などで必要とする物品が到着後すぐに使用できるメリットがあることから、今後も有効に活用していきたいと考えています。



スポットクーラーで涼むモルモット



インコ舎に設置した観葉植物(シルクジャスミン)

秋田市ふるさと納税の制度を活用し、動物園の運営費を支援いただくクラウドファンディング（以下、CF）を、2024年10月1日から12月31日まで実施しました。

今回のCFは、大森山動物園がこれまで力を入れてきた種の保存や教育活動、動物福祉の取組などを知ってもらい、今後も大森山動物園が安定した運営を継続していくためのさまざまな運営費を支援していただくことを目的としています。

ご支援に対する返礼品は、秋田市ふるさと納税の返礼品に加え、飼育員が手描きでデザインした人気動物のオリジナルトートバッグのほか、動物との記念撮影や園内散歩といった体験メニューを用意しました。

CFの実施に際し、目標金額を500万円に設定しましたが、大変ありがたいことに、11月上旬には目標金額を達成し、最終的に833人の方から、1,600万円を超えるご支援をいただきました。



クラウドファンディング紹介ページ(ふるさとチョイスGCF®より引用)



トナカイとの園内散歩



オリジナルトートバッグ

動物園の主な収入は入園料であり、入園者を増やすためには魅力ある動物園づくりが今後も不可欠ですが、今回ご紹介した取組により、地元の動物園を応援したいという方をはじめ、直接来園する機会は少ないが大森山動物園を応援したいというお気持ちを持った方が全国にいることを改めて知ることができ、職員一同深く感謝しております。

今後も応援いただいた方々のお気持ちにお応えし、動物たちが幸せに暮らせる動物園となるよう職員一丸となって取り組んでまいります。

応援会様からエサ販売小屋の制作をご支援いただきました



リニューアルしたサルのエサ販売小屋(前面・背面)

有志会員による秋田市大森山動物園応援会様からは、毎年、物心両面から応援とご支援をいただいております。今年は「サル山のエサ販売小屋をリニューアルしたい!」という飼育員の提案を受けて、制作費をご支援いただきました。サル山のエサやり体験の際は、「見ざる、聞かざる、言わざる」の大森山三猿のイラストもお楽しみください。



51年目の進化

～楽しく学べる
体験型動物園を目指して～

飼育展示担当（獣医師） 副参事 小川 裕子
企画広報担当 主席主査 金 大咲

開園51年目のシーズンに新たに掲げたテーマ「楽しく学べる体験型動物園」を体現すべく、スタッフ一同知恵を絞ってさまざまな企画を展開してきました。ここでは、文字通り「楽しむこと」と「学ぶ」ことの両立を目指した2つの企画について紹介します。

1

日々の動物イベントをグレードアップ！

～「大森山ZOOビンゴ」「めざせ!!アニマルマスター☆」など新たな企画も登場～

日々のまんまタイムや動物解説で動物の羽根や歯、骨などに直接触れてさまざまな角度から観察してもらい、参加して良かったと満足してもらえるイベントを企画しました。キリンの頭骨を使った角の話やインドクジャクやニジキジの羽根を触ってもらい好評を得ることができました。

そのほか、「大森山ZOOビンゴ」や「めざせ!!アニマルマスター☆」を企画しました。どちらも、耳や鼻、足など、動物ごとの体のパーツの違いにはどんな理由なのかをより詳しく来園者の方に伝えたいという飼育員達の思いを形にしたものです。今後は、校外学習で来園される小学生に利用してもらえるよう周知していきたいです。

大森山ZOOビンゴ

「大森山ZOOビンゴ」は、動物の鳴き声を聞いたりエサを食べる様子を見たりすることに丸をつけ、ビンゴを目指すものです。



めざせ!!アニマルマスター☆

「アニマルマスター」は、体の一部を隠した動物のイラストを実際に観察しながらスケッチして、体の特徴などを学ぶものです。



さよなら感謝祭では飼育員の解説付きでビンゴツアーも行いました

2

謎解きクエスト「銀河のカケラを探し出せ!」

ゆうえんちアニパを運営する豊永産業株式会社との初のコラボイベントを、10月6日から11月4日までの30日間開催しました。

入園ゲートから「謎解きクエスト」がスタートし、「小熊猫って何の動物だろう?」「竿燈をあげられる人気動物って?」など、動物園とゆうえんちアニパに隠された6つの謎を解きながら第1ステージをクリアし、最終第2ステージは「観覧車に乗って『ある物』を探せ!」という、わくわくするミッションでした。期間中、1,800人を越えるお客さまがチャレンジし「楽しかった!けどちょっと難しい!/?」という声が多く寄せられました。

2025シーズンも、練りに練った難問クエスト(!?)を準備したいと、スタッフも楽しみながら考えております。



入園ゲートから始まる謎解きクエスト



園内に隠された「お星さま」を探し出せ!



第2ステージをクリアすると素敵な景品をプレゼント

塩曳潟に生息するゼニタナゴの保全活動

飼育展示担当（動物専門員） 阿比留 優一

ゼニタナゴは日本固有の種ですが、外来種の増加や河川の改修、ため池の管理不足などの影響を受けて、存続が脅かされています。現在では、本県を含め岩手県や宮城県などの数県で確認されるのみです。環境省は、これまでも絶滅の危険性が最も高い種としてリストアップしていましたが、さらに法律により保護を図るため、2025年の2月に「特定第一種国内希少野生動植物種」に指定しました。大森山動物園では、2003年に園内にある天然の沼「塩曳潟」で、ゼニタナゴの生息を確認してからこれまで調査や保全に取り組んできました。

1 ゼニタナゴと二枚貝の不思議な関係

ゼニタナゴは、全長8～10cm程度で、ウロコはタナゴ類の中でも極めて小さく特異的です。秋になるとオスは婚姻色と呼ばれる赤紫の光沢のある色になります。メスは9月～10月に二枚貝に産卵します。長い産卵管を貝の出水管に差し込んで、エラに産卵し、同時にオスは貝の入水管の近くに精子を放ち、それが吸い込まれ貝の中で受精します。受精後4～7日で孵化しますが、ウジ虫のような形態の仔魚（しぎょ）として翌年の春まで貝の中で過ごし、5月～6月に貝から泳ぎ出きます。このような繁殖をするため、ゼニタナゴの生息環境には二枚貝の存在が必要不可欠です。



産卵管を伸ばしたメス



産卵のあった二枚貝

2 繁殖への挑戦

2006年にゼニタナゴの保護池を設置し、魚と二枚貝を保護する活動を始めました。この池は、卵から稚魚になるまでの1番弱い期間を守るため造られました。翌年に池内で初めて繁殖し、今日までの18年間にわたって稚魚の保護や繁殖、放流を行いました。沼の水を汲み上げて循環させており、環境が自然に近い状態であり、また外敵がいなかったため繁殖は順調でした。しかし、沼の水に依存しているということは、水質に異常があった場合に生き物が全滅してしまう可能性もあります。そのため、2014年から水槽下で繁殖できないかと考え、挑戦を始めました。二枚貝がゼニタナゴの卵や未熟な状態の仔魚を吐き出してしまいましたが、試行錯誤しながら繁殖に取り組んできました。そして、2020年に稚魚が



ゼニタナゴの稚魚



水槽下で生育したゼニタナゴたち

泳ぎ出ていることを確認し、大森山動物園では初めて水槽下での繁殖、成育に成功しました。この時は残念ながら1尾しか生存しませんでした。2024年には15尾の稚魚を成育させることができました。さらに2024年の秋には、成長した稚魚が二枚貝へ産卵する行動を確認しました。2025年の初夏に生まれてくる予定なので見守っていききたいと思います。

3 保全活動を通して

塩曳潟では絶滅危惧種のシナイモツゴやアカヒレタビラを始め、多くの生き物たちが生息する素晴らしい環境が守られています。ゼニタナゴの保全は単に種を守るだけではなく、多様な生物を育む塩曳潟の自然環境全体の保全につながる活動です。この活動を地域や来園者の皆さまと協働し行い、希少動物の保護や環境の保全について共に考え、情報を発信していきたいと考えています。



来園者と一緒に行った塩曳潟水生生物調査

Breeding report 飼育レポート



report.1

ユキヒョウ「ヒカリ」の旅立ち

飼育展示担当(動物専門員) 千葉 可奈子

母親のアサヒと離れ、一人暮らしにもすっかり慣れた頃、ヒカリのお嫁入りの話が決まりました。搬出先は、以前ヒカリの祖父(ヤマト)が暮らしていた札幌市円山動物園です。

2022年に誕生してから、たくさんの人たちにかわいがられ、愛されてきたヒカリ。担当者としても華々しく送り出してあげたいと、トークイベントや思い出をつづったアルバムを展示するなど、いろいろなイベントを準備しました。ヒカリのお別れ会の日、あいにくの天候でしたが、それにも関わらず県内外からたくさんの方々が集まってくれました。

10月21日、いよいよヒカリの搬出予定日です。緊張しながら搬出作業を進めていましたが、麻酔がなかなか効かず、ヒカリとスタッフの安全を考えた結果、搬出は一日延期になりました。



お別れ会ではヒカリの大好物やプレートをプレゼントしました

りました。翌日、無事に搬出用の檻に入ったヒカリは少し不安げな表情を見せながらも生まれ育った大森山を旅立って行きました。

10月23日、札幌市円山動物園からヒカリが無事に到着したとの連絡が入りました。檻から出たヒカリは元気そうで、北海道で初めて食べた鹿のお肉がおいしかったのか、新しい担当さんに「もっと、ちょうだい」とせがむ様子も見られたそうです。

名前が決まったのも、新天地に到着したのも10月23日の「世界ユキヒョウの日」という奇跡を起こしたヒカリ。これからのヒカリの活躍が楽しみです。



report.2

ビーバーの巣作りに挑戦

飼育展示担当(動物専門員) 宮原 星

アメリカビーバーは動物界では有名な建築家で、野生では枝や草、土などを使い、巣を作ります。動物園でもその行動を引き出し、より野生に近い姿を展示したいと思い、私の挑戦が始まりました。

挑戦といっても、私はビーバーに巣の材料を提供するだけで、あとはビーバーにお任せです。そのため、課題となったのが衛生面です。今までは毎日巣材を回収して新しいものに交換していましたが、できるだけ触らないようにしないとけません。最初は汚れがひどくなったら巣の一部を壊して清掃に入っていましたが、徐々にビーバーが自ら汚れた巣材を巣



外に出してくれるようになりました。

春から始まった巣作りは、秋に形が安定しました。巣はドーム状で、中には座布団くらいの広さの寝床があります。寝床はビーバー手作りの木くずがふかふかに敷き詰められていました。その後も巣作りに終わりはなく、ビーバーたちは毎日必ず巣の掃除や細かな修正、補強を行っていました。野生では何年もかけて作られ、代々受け継がれていくそうです。繁殖制限のため巣を解体する際、上に乗ってみましたが全く壊れないほど頑丈でした。

今後もビーバーがよりビーバーらしく過ごし、お客さまに野生に近い生態をご覧いただけるよう、挑戦していきたいです。



解体前のビーバーの巣



巣材にはこんなにも多くの木材が使われていました

report.3

カンガルーの繁殖における取り組み

飼育展示担当 長谷川 宗

カンガルーはオスとメスを同居させると比較的容易に繁殖させることが可能ですが、増えすぎてしまうと1頭あたりの飼育スペースが狭くなり病気が発生しやすくなってしまいます。そのため、2019年からオスとメスを別々の展示場に分けて飼育しています。

しかし、徐々に頭数が減ってしまい2023年の春から再度繁殖を試みることになりました。適切に繁殖を制限するため、全部で8頭いるメスのうち2頭をオスと同居させる方法で1頭を無事に繁殖させることに成功しました。



2023年に
生まれた
「すだち」
（「みかん」の仔）

2024年には逆の方法で、オス1頭をメスの群れと同居させる方法を試みました。この方法で注意しなければならないことは、カンガルーは着床遅延が可能な動物であることです。着床遅延とは、母親がすでに育児中の場合や食物の供給が不十分な場合に、適切な時期に子どもを産むことができるよう、交尾後の受精卵の着床を遅らせることです。これにより妊娠中でも交尾が可能のため、発情が2回来る前に同居を終了しないと子どもが増えすぎてしまう可能性があります。このことから同居期間はカンガルーの性周期（約35日）にあわせて1か月間としました。

この方法で2024年秋には2頭の赤ちゃんが生まれ、現在元気に暮らしています。今後も1頭1頭が健やかに暮らせるよう飼育員一丸となって計画的な繁殖を行い、適切な飼育管理を行っていきます。



2019年にメスの展示場をお弁当広場側に新設

report.4

これからも花子と一緒に！

飼育展示担当（動物専門員） 堀籠 麻子

2024年6月5日、仙台にいた花子が無事帰ってきました。

帰ってすぐの頃はふるさと大森山の環境を思い出すかのよういろいろな物確かめながら動き回る印象がありました。日中は飼育員や来園者がいるため落ち着いていることが多かったのですが、夜間は一人だと不安な様子で、なかなか横臥（おうが）睡眠（横になって寝ること）が見られませんでした。

横臥睡眠は落ち着いた状態で過ごしていることの指標にもなるため、給餌回数と一緒に過ごす時間などを増やして安心できるようにしたり、古タイヤなどの遊び道具を置いたりして筋トレトレーニングを行い、日中にたっぷり体を動かすようケアをしてきました。そのためか、7月に入ると横臥睡眠の時間と回数が急激に増えました。今ではほぼ毎日しっかり寝て休んでいるのを確認しています。



声かけなど意思疎通を図りながら行う採血トレーニング



賑やかな雰囲気にもまれてのまんまタイム

余談ですが、花子はエサを「ぐー、ぐー」と音を発しながら食べたり、声をかけると「ぶぉーん」と返事をしてくれたりします。騒がしすぎるのは苦手ですが、賑やかな雰囲気は好きなようでよく人の話を聞いています。みなさんも遊びに来た際にはどうか花子にやさしく声をかけてあげてください。もしかしたら返事を返してくれるかもしれません。

これからも花子が元気に過ごせるようゾウ担当をはじめ職員、来園者の方々にも協力してもらいながらケアしていきたいと考えています。



のびのびと
元気に
遊ぶ花子

大森山アートプロジェクト 2024

大森山動物園と秋田公立美術大学(以下、美大)が連携し、アートによるにぎわいづくりを目指す「大森山アートプロジェクト」は、その前身である「大森山Art&Zoo」から数えて2024年で10年目となりました。

今回は次の2作品を制作してもらいました。

1 壁画「ペンギンの生涯」

壁画のデザインは美大をはじめ国内外の美術系学院・大学から計65点の応募があり、その中から秋田公立美術大学附属高等学校(以下、高等学校)3年生の堀井佐紀さんの作品が選ばれました。

9月23日と10月20日の2日間で延べ32人の美大生・高等学校生が描き上げた壁画は、来園者からも「温かい色合いで、絵本を読んでいるよう」と大変好評でした。



制作前にペンギンを観察



制作スタート



ペンギンの誕生から巣立ちまでの一生をテーマにしています

2 アカコンゴウインコをモチーフにした案内板

美大コミュニケーションデザイン専攻3年生の松田悠里子さんのデザインによる、全長2メートル、幅1.8メートルの大きな案内板が12月に完成。

第一駐車場に設置していますので、ご来園の際は真っ赤な巨大インコを目印にお越しください。



入口のメロも制作中



美大生による色づけ作業



入口に迷ったら目印にしてね

Event Reports



秋の動物ふれあい フェスティバル

10月6日

さわやかな秋晴れの下、恒例の「どうぶつパレード」を開催！イヌワシやポニーなど12種類の動物が間近で園路を行進する様子に、お客さまの視線はくぎ付けでした。

また、「アニマル応援隊☆食欲の秋」では、普段飼育員が行っているゾウやクマの食事の工夫を楽しく学びました。



お客さまの近くをパレード



ゾウが好む枝葉を実際に切って花子にプレゼント



どうぶつサイエンスII

～身近な自然から学ぼう～ 10月20日

自然科学学習館との共催で実施。大森山公園を散策し、どんぐりを集めて隠すゲームや、昆虫や植物をスケッチして自然マップ作りを行ったほか、ツキノワグマの秋の生態を学びました。体験学習を通じて身近な自然について理解を深めることができました。



大森山公園を散策



みんなのスケッチをもとにマップが完成！

ト

レ

ポ

ー

ト



いい夫婦の日イベント

11月17日

11月22日の「いい夫婦の日」にちなんだイベントを開催しました。夫婦やカップルの皆さまを対象に、恋愛に縁起が良いとされる動物や雌雄ペアの動物の特別ガイドツアーやオリジナル写真立て作りを行いました。



レッサーパンダのカップル(ひなた&円実)にエサやり体験



トナカイとの記念撮影も。撮った写真は記念に手作り写真立てへ♡



さよなら感謝祭

12月1日

シーズンの閉園イベントとして、お客さまや動物たちへの感謝を込めて開催しました。セレモニーでは、亡くなった動物たちに慰霊の献花を捧げました。

また、飼育員と園内を巡るビンゴツアーも開催しました。

このほか、無料エサやり体験やポニーなどの動物との記念撮影会、恒例のまんまタイムなど多くのイベントを実施しました。



感謝祭セレモニー



動物たちとの記念撮影



雪の動物園

1月4日～2月24日の土日祝日

今回で19回目となる「雪の動物園」を開催しました。冬の動物たちの様子をご覧いただいたほか、カピバラの湯っこやトナカイ・ポニーのおさんぽタイムなど冬ならではのイベントを行いました。

また、前回に引き続き、大森山ゆうえんちアニパの暖房付き観覧車を1月と2月の3連休限定で特別運転しました。



お正月にちなみ門松ならぬ門笹をプレゼント



ビーバーかまくら



トナカイ散歩



レッサーパンダのまんまタイム

今後のイベント

3月15日(土)～11月30日(日)

2025年通常開園

※期間中無休



飼育日誌

(令和6年7月1日～12月31日)

7/1	ツキノワグマ	トレーニング実施。
7/4	ニホンイヌワシ	月子♀ 両脚趾瘤症悪化、附腫が太く熱感あり。ハジミ・ダニの寄生多い。
7/5	キリン	ケイト♂ 3回目の採血に成功。
7/8	フタコブラクダ チンパンジー	幸♀ 抗生剤内服、サポーター装着。 数年ぶりにK太郎のまんまタイムの練習を行う。
7/11	ラマ	モス♀ ヒロ♂との繁殖の為キリン舎へ移動(2回目)交尾1回あった可能性あり。排卵促進剤筋注。
7/12	アフリカゾウ	花子♀ 筋力トレーニング実施。
7/15	ノドジロオマキザル	日向♂とカオル♀で交尾確認。
7/17	アカカンガル	みかん♀ 育児嚢の膨らみ若干あり。
7/20	ニホンイヌワシ	千秋♂・紫翠♀健康チェック。
7/23	マーコール	子 少したが、角が出てきた。
7/26	コモンマーモセット	モモ♀ 後肢の筋肉が落ちてくる。
7/27	ミニブタ	とんぺい 去勢♀ AM自力起立できず。採食なし。体温36.8℃ PM自力起立し、採食。38.5℃
7/29	フクロテナガザル	ワタル♀ 軟便から下痢。避妊薬減量したが改善ないため内服中止。
7/30	ヤギ	ゆばの角鞘が取れた。
8/9	インドクジャク	4羽孵化したが、展示場外へ出てしまうおそれがあることから、母親と一緒にキジ舎に面した小屋に収容。
8/14	シマフクロウ	(採血)捕獲作業。
8/15	カリフォルニアアシカ スバルバルライチョウ	マヤ♂ 採血実施。 避暑のため隔離棟へ移動 爪切り実施Bw793g(前回比-100g)
8/16		熱中症警戒アラート発令のため「なかよしタイム」中止。
8/21	トナカイ	春来♀ 角の皮膚が剥け、キーパーへの攻撃性も増し本日から間接管理、第2展示場上段へ移動する。
8/22	ミーアキャット	全頭体重測定実施。
8/29	ヨーロッパフラミンゴ	ヒナの自力採食確認。
8/30	トナカイ	春来♀ ルーサン・MSいずれも採食不良だが湿らせてところルーサンの採食開始。
8/31	ライオン	ローア♀ 尿の色が濃い。獣医師診察。抗生剤の投与開始。
9/6	アカカンガル	エメラ♀ 左眼眼球突出かなり悪化。抗生剤注射開始。
9/9	ニホンイヌワシ	(第2ペア)健康チェック及び移動作業(隔離棟からイヌワシ保全棟へ)。
9/11	キリン	ケイト♂ 右側の切歯が1本抜ける。
9/14	シロマダラ	解凍マウスの肢1、尾1の強制給餌に成功。
9/23	トナカイ	雨囀♀ バレード練習実施、しの♀ 両角枯角となる。
	ホンドフクロウ	たけこ♀ 動物病院からフクロウ舎へ移動。
9/24	ワオキツネザル	今年生まれの子2頭:捕獲保定しマイクロチップ埋め込み。
9/25	ニホンイヌワシ	新規ペア形成 たつ子♀×千秋♂、紫翠♀×楓音♀
9/30	ユキヒョウ アムールトラ	リヒト♂のマタタビ抽出物に対する反応を観察。 シュウ♂ ワクチン接種訓練実施。
10/2	アメリカビバー	チャチャ♀ 左目の目やに多く点眼行う。

10/7		鳥インフルエンザ講習会。
10/8	インコ舎 カリフォルニアアシカ	サッシ設置。 雌雄同居。
10/10	カナダヤマアラシ	2頭 病室5から病院バードケージに移動。
10/13	マーコール	繁殖制限の為、雌雄を分離。
10/14	ユキヒョウ	ヒカリ♀ 麻酔注射模擬トレーニング実施。
10/15		サル山一斉捕獲(追い込み)、去勢(1頭)。
10/17	シュバシコウ	高病原性鳥インフルエンザ警戒期間スタート。 コウノトリ舎へ移動。右脚跛行あり。経過観察。Bw3.82kg(前回比+0.18kg)
10/23		猛禽舎(フクロウ・シマフクロウ2部屋・イヌワシ4箇所)鳥インフルエンザネット付け作業。
10/26	ホンドタヌキ	ゼン♂ 胸部に出血痕あり。傷は確認できず。
10/27	フンボルトペンギン チンパンジー	隔離棟へ14羽移動(鳥インフルエンザ対策) K太郎♂J太郎♂ 闘争により負傷、経過観察。
10/29	フラミンゴ	健康チェック(全羽捕獲)
10/30		キジ舎冬囲い。
10/31	チンパンジー	J太郎:10/27(日)の闘争から初めて外に出てコタロウと同居。
11/1	ニホンリス	マイクロチップ挿入。
11/2	カピバラ レッサーパーンダ グリーンイグアナ	湯こ初日。 ひなた♂に2度恋鳴きありと来園者から情報あり。 イグリン 尻尾15cm自切。
11/5	ノドジロオマキザル	カオル♀ 腹周りが大きくなった様子。 フクロウ舎サッシ取り付け。
11/12	ニホンイヌワシ	千秋♂×たつ子♀ 巢材投入。たつ子がすぐに巢に持ち込む。
11/19	フンボルトペンギン	屋内隔離を解除。隔離棟ペンギンをペンギン舎へ移動。
11/21	アメリカビバー	チャット♀ 上の前歯が折れてしまったようで、食べづらそうにしている。 ゼニタナゴFRP水槽冬囲い。
11/24	ニホアナグマ キリン	いけだ♂ 起立不能。展示中止し、小動物舎予備室で治療中。 体重測定。
12/1	アフリカゾウ	花子♀ 夕方、油圧扉やタイヤにアタックを繰り返していた。
12/6	マーコール カリフォルニアアシカ	ところてん♀とクリーム♀にマイクロチップ挿入。 アイラ♀ 腹部の触診も成功。
12/7	カナダヤマアラシ	♀2頭病院からヤマアラシ舎室内に移動。
12/9		鳥インフルエンザマニュアル説明会・演習会。
12/11	アメリカビバー	巢解体作業。
12/12	アメリカビバー	動物脱出防止対策演習。 チャット♀ 少し歯の長さが改善したようで、食べ方が少し良くなっていた。
12/13	アメリカビバー	雌雄分離。
12/20	アカカンガル	カスベ♀の仔ヒラメが午後から行方不明。夕方探したが、見つけれず。
12/21	アカカンガル	みかん♀ 育児嚢内にカスベ仔ヒラメがいるのを確認。
12/24	アムールトラ	~28日 シュウ♂・カサンドラ♀同居。複数回の交尾を確認。
12/26	ツキノワグマ ボアコンストリクター	冬ごもり開始。 シア♂ 6か月ぶりに採食あり。
12/29	ベニコンゴウインコ	朝、巣箱内で3個の卵確認。
12/30	コモンマーモセット	コモ♀ ♀部屋内でケージ越しお見合いスタート。

お客さまの声

- 9/21 羽村動物園のビーバーチャルちゃんの実家が見たくてやってきました。巢も見れる展示で良かったです!ビーバーのまんまタイム&グッズをお願いします。
- 9/28 40年ぶりに来ました。とても魅力的な園で感激しました。また来たいです。
- 10/10 ひとりのんびり、可愛い動物たちと触れ合い、シアワセ気分を満喫できました。売店も、たくさん商品があり、楽しめました。ありがとございます♪
- 10/12 もう何度も訪れていますが、いつ来ても常に新鮮に楽しいです。季節によってもさまざまな動物たちの行動や表情が違っていつも楽しませてもらっています。また、絶対来ます。
- 10/21 ユキヒョウ・ヒカリのお話会、お別れ会を企画してくださり、ありがとうございます。アサヒはコロナで閉園中の移動だったのので、めちゃくちゃ嬉しいです。思い出スライドショーも最高です。
- 11/16 小さい頃によく来ていて、中学、高校、大学となるにつれてくる機会が無くなっていましたが、今回久しぶりに来てすごく楽しく感じています。機会があったらまた来たいと思います。
- 11/25 飼育員さん達の動物愛がすごく伝わる。見て!すごいんだよ!この子!!みたいな。

かたばた通信

大森山動物園に異動して2年目です。施設担当として動物たちが生活する施設やお客様が使用される施設、園路の管理などを行ってきました。これまで体験したことがない業務が多く、一から学ぶ必要があり苦戦していましたが、自分のできる事が増えていくことで動物園の役に立っていると実感することも多々あり、やりがいを感じています。これからも新しいことに挑戦し、より快適な動物園環境を作れるよう尽力します。(吉川)



発行/秋田市大森山動物園

〒010-1654 秋田市浜田字湯端154番地 TEL 018-828-5508 FAX 018-828-5509
E-mail ro-inzo@city.akita.lg.jp デザイン・印刷/秋田活版印刷株式会社

●動物取扱業者 秋田市長 穂積 志 ●事業所及び所在地 秋田市大森山動物園 秋田市浜田字湯端154番地
●登録に係る動物取扱業の種別/販売:動-19-52 貸出し:動-19-53 展示:動-19-54
●登録の年月日/2007年6月1日 ●有効期間の末日/2027年7月31日 ●動物取扱責任者/高橋 広志、山上 昇

大森山動物園

検索

<https://www.city.akita.lg.jp/zoo/index.html>